

大豆特報第2号

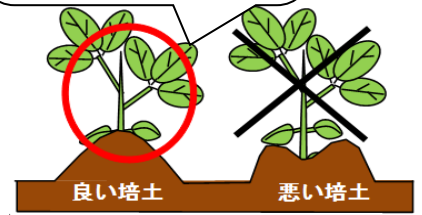
今年は、好天が続きほ場の状態は良好でしたが播種開始時期に降雨があったためスタートがやや遅れ気味となりました。

今後は、梅雨入りに備えて、排水対策を徹底するとともに、適期の培土作業や除草作業により、大豆の収量及び品質向上につなげましょう。

1. 培土作業は遅れず実施

- ・株元までしっかりと土がかかるように行いましょう。
- ・培土でできた溝は、額縁排水溝や基幹排水溝に、速やかに連結しましょう。

M字型の培土では、株元に水がたまり、湿害や病害が発生しやすい。



区分	培土時期	高さ
1回目	本葉2～3葉期 (播種後20～25日ごろ)	子葉が埋まる程度
2回目	本葉4～5葉期 (播種後30～35日ごろ)	初生葉が埋まる程度

2. 除草剤で雑草防除を徹底

- ・雑草対策は、播種直後の除草剤散布と2回の培土が基本ですが、培土後に雑草が繁茂した場合は、除草剤の散布が効果的です。
- ・大豆の生育状況や発生した雑草の種類を確認し、適切に除草剤を使用しましょう。

対象雑草	薬剤名	10a当たり散布量	散布上の注意点
イネ科雑草	ナブ乳剤	150～200ml (希釈水量 100～150ℓ)	・イネ科雑草3～5葉期までに散布する
	ポルトフロアブル	200～300ml (希釈水量 50～100ℓ)	・イネ科雑草3～10葉期までに散布する
イネ科雑草 と 広葉雑草	New パワーガイザー液剤	200～300ml (希釈水量 100ℓ)	・大豆出芽直前～3葉期まで(雑草2葉期まで)に散布する ・水稻等周辺作物へ薬剤が飛散しないよう十分注意する
	バスタ液剤	畦間処理：300～500ml (希釈水量 100～150ℓ)	・強風時の散布は避ける ・つり下げノズルを使用し、大豆にかからないよう注意
	ロロックス	100～200g (希釈水量 70～150ℓ)	・雑草生育期草丈15cm以下 ・大豆3葉期以降に畦間・株間処理する ・イネ科雑草やツユクサには効果が劣る
広葉雑草	大豆バサグラン液剤	大豆2葉期～開花前まで 雑草茎葉散布： 100～150ml (希釈水量 100ℓ)	・広葉雑草発生初期～6葉期までに散布する ・著しい高温時は、薬害が出やすいので、使用を避ける ・エノキグサやアサガオ類などには効果が劣る ・本剤の使用回数：1回以内
		大豆生育期 畦間処理：300～500ml (希釈水量 100ℓ)	

※ロロックス、大豆バサグラン液剤の畦間処理には、つり下げノズルを使用し、大豆の本葉にはかからないよう注意しましょう。

また、近隣の作物にかからないよう注意するとともに、使用基準を厳守しましょう。

大雨の前後には排水溝の点検と補修を行い、ほ場内に水が溜まらないようにしましょう。